

がん・生殖医療連携会議

/Oncofertility Consortium JAPAN 2016 Meeting準備会議

平成28年度厚生労働科学研究補助金（がん対策推進総合研究事業）
総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究

H27-がん対策-一般-005

班長：国立名古屋医療センター臨床研究センター長 堀部敬三先生

熊本県のがん・生殖医療連携の現状

岡村佳則

熊本大学 産科婦人科



生殖小班

聖マリアンナ医科大学医学部
岐阜大学大学院医学系研究科
岡山大学大学院保健学研究科
長崎大学医学部附属病院
滋賀医科大学医学部
埼玉医科大学総合医療センター
岐阜大学大学院医学系研究科

- 産婦人科学
- 産科婦人科学分野
- 生殖医学
- 産婦人科、生殖内分泌学
- 産婦人科学
- 産婦人科学
- 産科婦人科学分野

鈴木 直
古井 辰郎
中塚 幹也
北島 道夫
木村 文則
高井 泰
森重健一郎

熊本県における取り組み

熊本県について

人口177万人

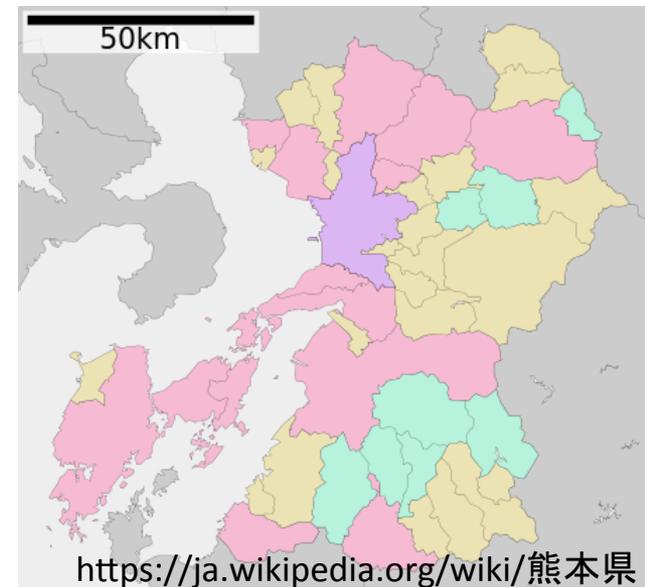
年間出生数1万6千人

基幹病院となる大学病院が1施設

ART登録施設は7施設

(うち6施設は熊本市内に集中)

県庁所在地都市を中心とした
典型的な地方県



本年6月29日から本格的に始動しました。

熊本大学医学部附属病院 生殖医療・がん連携センター キックオフシンポジウム

日時：平成28年6月29日（水）

18：30～20：00

場所：熊本大学医学部附属病院
医学教育図書棟3階・第1講義室

参加費・駐車場
無料

プログラム

受付：18:00～

開会：18:30

挨拶／熊本大学医学部附属病院産科・婦人科
教授 片測 秀隆 先生

演題1：18：30～19：00

『熊本大学医学部附属病院 生殖医療・がん
連携センターの役割について』

熊本大学医学部附属病院産科・婦人科
講師 本田 律生 先生

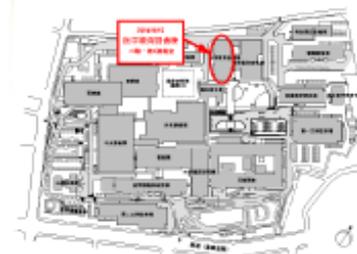
演題2：19：00～20：00

『小児およびAYA世代がん患者のがん治療と
生殖機能～がん・生殖医療連携としての岐阜
モデルの現状～』

岐阜大学大学院医学系研究科産科婦人科学
准教授 吉井 辰郎 先生

閉会：挨拶／熊本大学医学部附属病院産科・婦人科
教授 片測 秀隆 先生

会場アクセス：



定員：150名

申込：6月24日締切

FAX・メールにてお申込ください

問い合わせ先：

熊本大学医学部附属病院
医事課 地域医療連携担当

Tel：096-373-5734

Fax：096-373-5957

Mail：lyks-chiki@jmu.kumamoto-u.ac.jp

主催：熊本大学医学部附属病院産科・婦人科

共催：熊本県がん診療連携協議会相談支援
情報連携部会



Kumamoto University

熊本大学医学部附属病院 生殖医療・がん連携センター

キックオフシンポジウム

日時 平成28年6月29日(水)18時30分

場所 熊本大学医学部附属病院 医学教育図書棟3階・第1講義室

主催 熊本大学大学院生命科学研究部 産科・婦人科

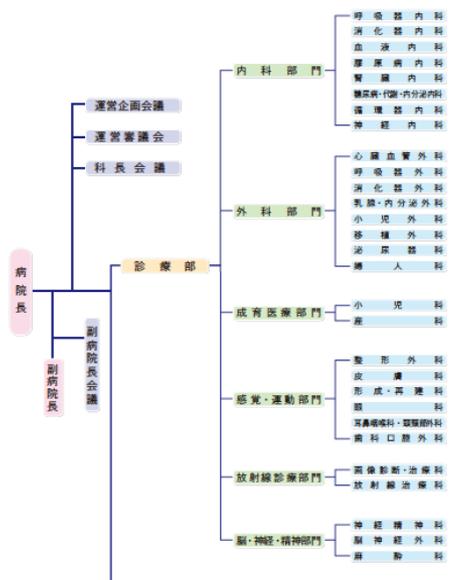
共催 熊本県がん診療連携協議会相談支援情報連携部会

キックオフシンポジウムまでの経緯

- ①2年前より度々県へサポートを依頼するもオブザーバーとしての参加にとどまる(財政面)。
- ②大学病院内に生殖医療・がんセンターを立ち上げるために、病院長、病院運営審議会への働きかける。
- ③「センター設置に際して新たな人員配置や費用負担を生じることがない」との条件で設置が認可される。
- ④センター設置に際して、院内規定を策定し、臨床各科からコアメンバーを選出していただき、センター長及びコアメンバー会議を置くことで、名称だけでなくセンターとしての実質的な活動を開始した(ネットワーク)。

2. 組織図
Organization Chart

平成 27 年 4 月現在



病院長と直接の繋がりが無い、院内措置の診療支援組織として認可される。



※院内措置の診療支援組織

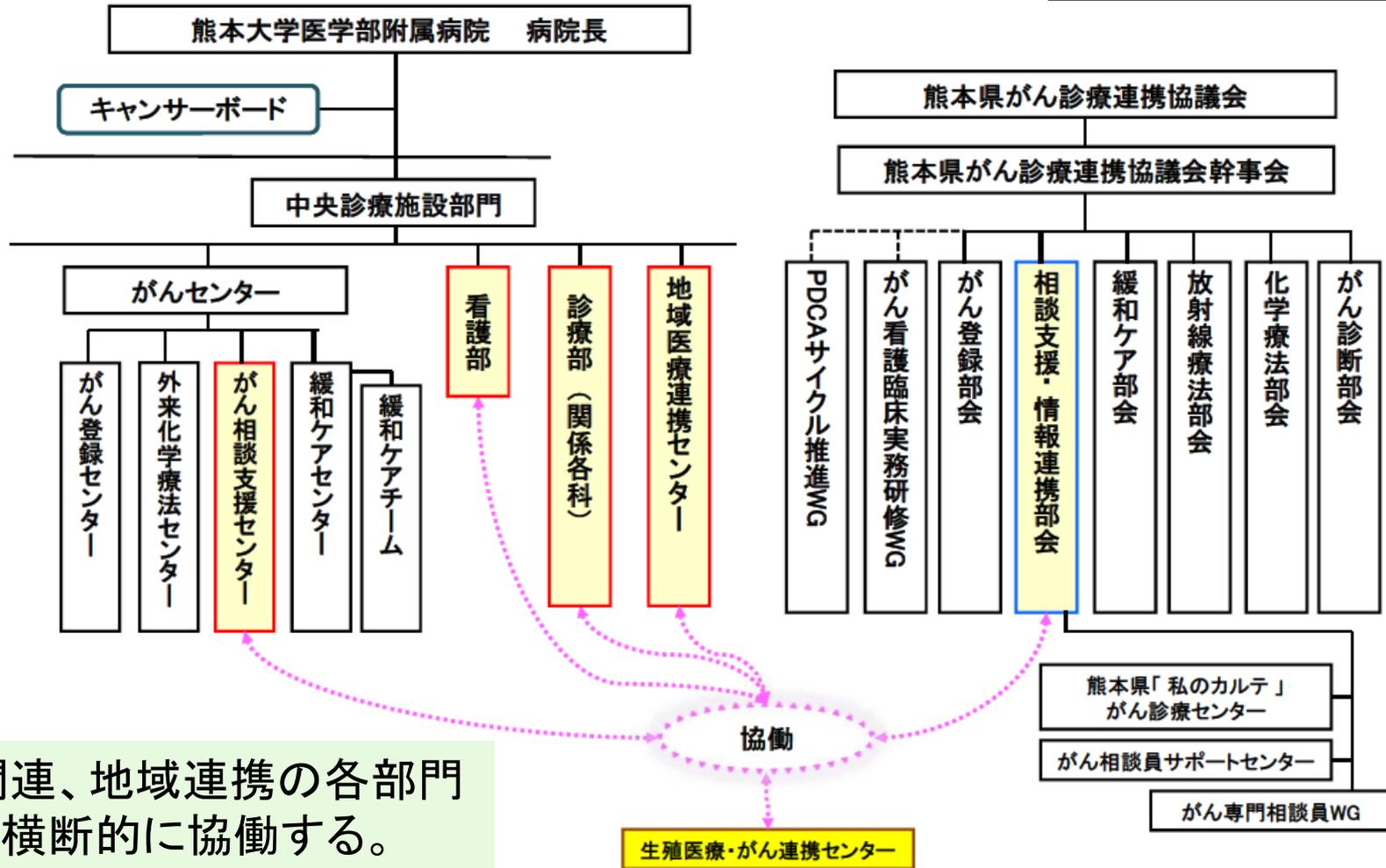
- 肝疾患センター
- 認知症疾患医療センター
- 高次脳機能障害支援センター
- 発達障がい医療センター
- 褥瘡対策室
- 褥瘡対策チーム
- 感染対策室
- 遺伝カウンセリングチーム
- 患者相談室
- 糖尿病透析予防チーム
- アミロイドーシス診療センター
- 痛下障害診療センター
- 血栓症センター
- 患者移送支援室

生殖医療・がん連携センター

熊本県における取り組み

第1回 コアメンバー会議 平成28年6月29日	資料 2
-------------------------------	----------------

生殖医療・がん連携センター組織図 (H28.6.29現在)



がん関連、地域連携の各部門と組織横断的に協働する。

※院内措置により承認された組織だが、院内の各科・各部のみならず、県内の各がん診療連携拠点病院と連携の上、運営する。

〔平成28年5月31日制定〕

(設置)

第1条 熊本大学医学部附属病院（以下「本院」という。）に、若年層のがん患者を対象とした妊よう性温存治療（以下「がん生殖医療」という。）の提供及び熊本県内にがん生殖医療情報を普及させるため、熊本大学医学部附属病院生殖医療・がん連携センター（以下「センター」という。）を置く。

(業務)

第2条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) がんと生殖医療に係る医療情報の提供に関すること。
- (2) 熊本県内の専門医療機関等に係る情報の収集及び提供に関すること。
- (3) 医療従事者及び地域住民等を対象にした研修会及び講演会の開催並びに相談支援に関すること。
- (4) ART施設など専門医療機関等との協議に関すること。
- (5) その他センターに関すること。

(センター長)

第3条 センター長は、婦人科長をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

(コアメンバー会議)

第4条 センターの管理運営に関する事項を審議するため、コアメンバー会議を置く。

2 コアメンバーは、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) がんに携わる診療科の医師 若干名
- (3) がんに携わる病棟及び相談窓口となる部署の看護師 若干名
- (4) 医師及び看護師以外のがんに携わる部署の医療職種 若干名
- (5) その他センター長が必要と認める者 若干名

3 コアメンバー会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第5条 センターの事務は、センターにおいて処理する。

(雑則)

第6条 この申合せに定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この申合せは、平成28年5月31日から施行する。

院内措置によるセンターには本来規則を制定できないが、責任体制を明確にするために、センター長とコアメンバーを置く申し合わせを制定した。

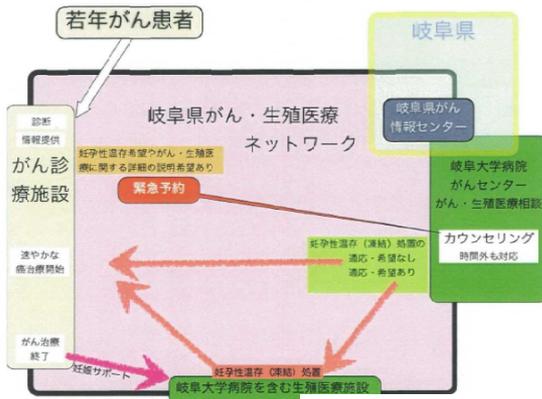
生殖医療・がん連携センターコアメンバー名簿

平成28年6月29日現在

規則 第4条		所 属	職 名	氏 名
1	センター長	産科・婦人科	教授	片渕 秀隆
2	申合せ4条2項2号	〃	講師	本田 律生
3	〃	〃	講師	岡村 佳則
4	〃	〃	特任助教	伊藤 史子
5	〃	〃	助教	本田 智子
6	申合せ4条2項4号	〃	胚培養士	青木 亜衣
7	申合せ4条2項2号	呼吸器内科	助教	佐伯 祥
8	〃	血液内科	助教	菊川 佳敬
9	〃	血液内科	助教	松野 直史
10	〃	乳腺・内分泌外科	特任准教授	指宿 睦子
11	〃	外来化学療法センター	講師	陶山 浩一
12	〃	泌尿器科	准教授	西 一彦
13	〃	泌尿器科	助教	杉山 豊
14	〃	小児科	助教	阿南 正
15	〃	整形外科	助教	佐藤 広生
16	〃	歯科口腔外科	助教	尾木 秀直
17	〃	脳神経外科	助教	黒田 順一郎
18	申合せ4条2項3号	看護部 (東病棟7階)	看護師長	本田 万里子
19	〃	看護部 (がんセンター)	〃	岡本 泰子
20	〃	看護部 (がんセンター)	副看護師長	安達 美樹
21	〃	看護部 (地域医療連携センター)	看護師長	井原 国代

(コアメンバー任期:なし)

岐阜モデル

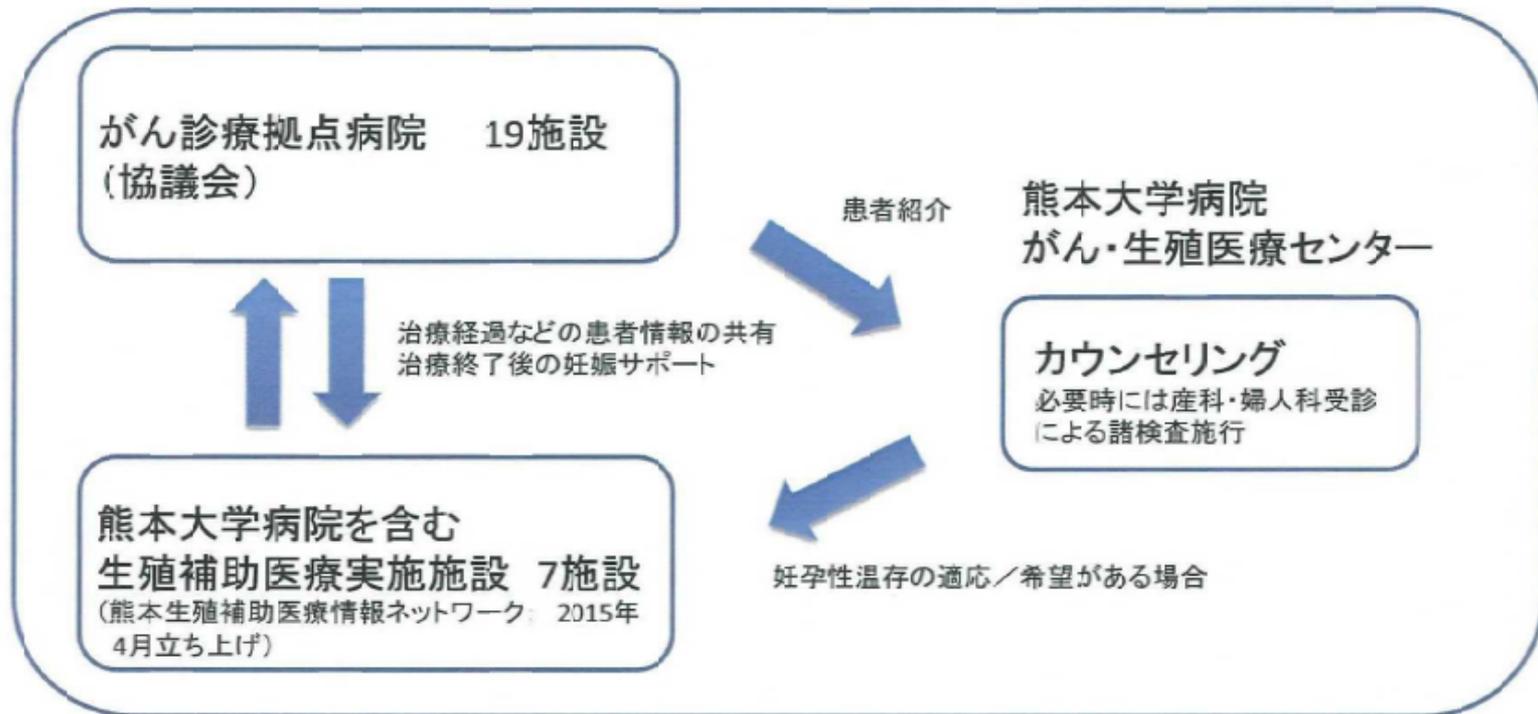


熊本県におけるネットワーク

岐阜モデルをお手本にして
ネットワークを立ち上げる。

熊本県がん・生殖ネットワーク

(県はオブザーバーとして参加)



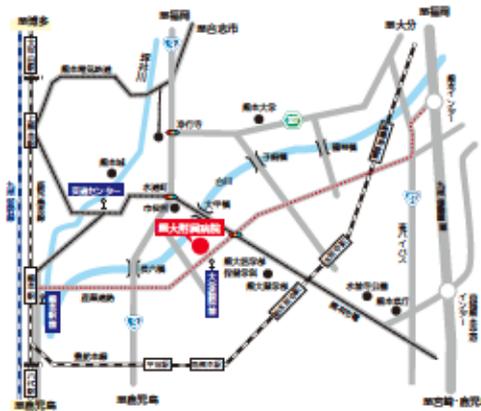
生殖医療・がん連携センターのご案内リーフレット

ご利用方法

- ◆相談までの流れは前のページを御参照下さい。
- ◆相談日: 本院より受診施設へ連絡を行います。
- ◆相談方法: 医師による面談
- ◆相談料金: 30分まで 8,950円(税込)
延長は30分ごとに8,950円加算(税込)



案内図



お問い合わせ

熊本大学医学部附属病院
地域医療連携センター

〒860-8556 熊本市中心区本荘1丁目1番1号
TEL 096-373-5676

生殖医療・がん連携センターの ご案内



がんの治療として、化学療法(抗がん剤治療)や放射線療法を行うことがあります。これらの治療では、妊娠のしやすさ(受精能力・妊育性)が低下したり、不妊になることがあります。

最近では生殖医療の進歩により、妊育性を温存することが可能になりつつあります。

 Kumamoto University

熊本大学医学部附属病院

Kumamoto University Hospital

生殖医療・がん連携センターのご案内リーフレット

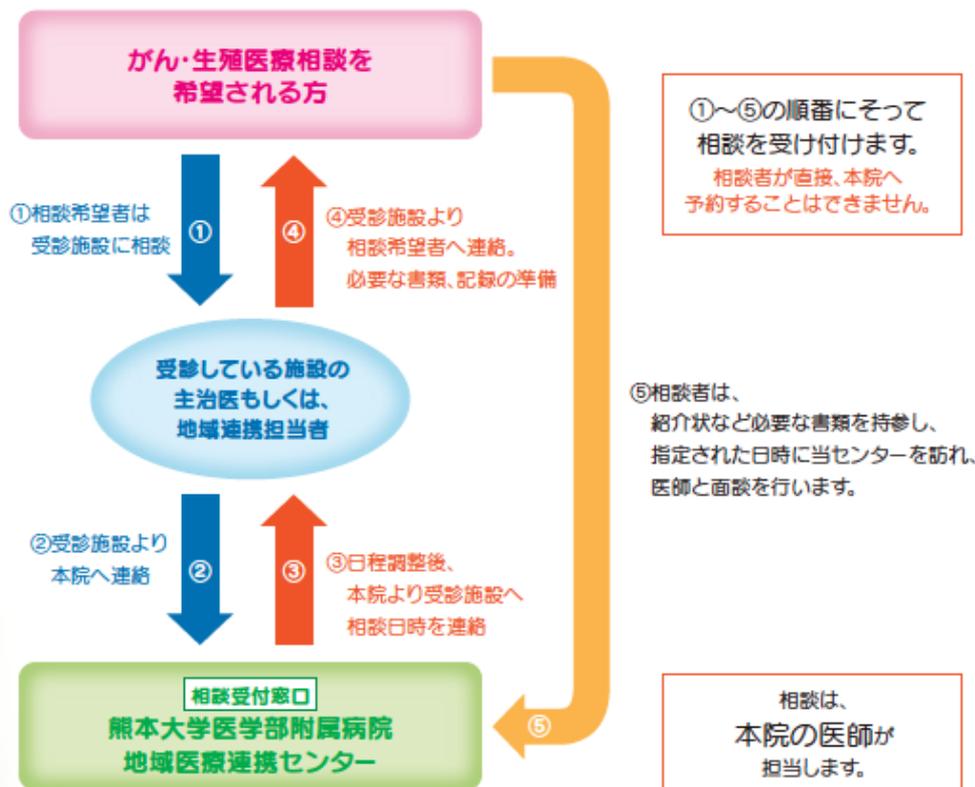
生殖医療・がん連携センターのご案内

当センターの役割

小児がん、子宮頸がん、乳がん、精巣がん、白血病に代表される若年がん患者さまに対し、妊よう性温存治療、受精卵温存、卵巣組織凍結に関するカウンセリング(がん・生殖医療相談)を行います。

カウンセリング後、適応のある患者さまに本院を含めた、ART実施施設の紹介と胚や配偶子(未受精卵子・精子)、卵巣組織などの凍結保存と長期管理を本院と県下のがん診療拠点施設、ART実施施設と連携しながら行っています。

このような流れでご相談をお受けします



「がん・生殖医療相談」相談者の対応

当院入院中もしくは、受診中の患者



従来通り、産婦人科院内コンサルト
緊急の場合は、担当医師が産婦人科
医師へ電話でコンサルト

注意点！

入院中の患者が採精・採卵するときは、退院の手続きを取り、緊急入院の形式をとる（保険診療で入院中に自費診療は不可のため）

他院受診中の患者



緊急性なし



パンフレットの手
順に沿う



緊急性あり？（電話をかけてきた医師もしくは代行者がそのように言ったとき）



地域連携センターから、産婦人科医師へ電話を取り次ぐ



緊急性のある相談に対応できる体制

産婦人科医師と受診している病院医師と直接電話で話し、緊急性の有無を判断する。
「緊急性あり」と判断：採卵・採精日時を決定する
「緊急性なし」と判断：パンフレットの手順に沿う

「がん・生殖医療相談」における地域連携センターの電話対応について

1.相談依頼の電話を相談者が受診している施設から受ける
 ★相談者個人からの電話予約は不可。もし相談者個人から、電話があった場合、相談の流れ(パンフレットに沿って)を伝える **個人からの相談は不可**

2.緊急を要する・時間がないと先方が言われたら、電話を直接、産婦人科医師へつなぐ(電話番号は下記)

緊急ではない場合:**電話対応記録用紙(別紙)**に沿って情報を聞き、産婦人科医師へ電話連絡。→相談OKか否かを聞き、1の施設へ電話連絡を行うこのとき、疾患や治療を詳細に記した**情報診療提供書を地域連携センターへ相談日時**の**1週間前までにFAX**し、当日、相談者本人が持参するように伝える。また、相談予約(予約センターに電話)を取るように説明する。相談枠は、火曜日～金曜日の午後、14:00～16:00 1時間1名。相談者本人ではなく、施設関係者が予約するように念を押す。(個人からの相談予約は不可のため)

産婦人科医の連絡先 ①の先生からCall つながらない場合、順番にかけていく
 ①本田律生Dr(PHS 79502) ②岡村佳則Dr(PHS 79506)
 ③本田智子Dr(PHS 79512) ④伊藤史子Dr(PHS 79515)
婦人科外来 5670 5671 **東病棟7階(婦人科病棟)** 7177 7427
 連絡がつかない、困った場合は **東7 本田(PHS79824)**まで御連絡ください

現状と課題

- ✓ 大学病院内に生殖医療・がん連携センターを立ち上げ、ネットワークにおけるカウンセリング体制をスタートさせた。
- ✓ 県内のがん診療拠点病院(19施設)にネットワークの立ち上げを周知するとともに、まず大学病院内でがん・生殖医療に関係する診療科から、コアメンバーを選出してもらい、活動を開始した。
- 今後、実際の運用体制が人的・時間的に可能であるかの検証が必要。
- 卵巣組織凍結をめざした制度的・技術的問題の解決。

今後の方向性

- 生殖医療・がん連携センターの存在を周知させ、対象年齢の患者さんを担当する医師に気軽に相談してもらえることをめざす。
- カウンセリング体制を整える。
- がん診療に関わる他職種として、今後、臨床心理士、薬剤師等の参加を呼びかける。

ネットワークの運営体制(1)

紹介先の主な施設	<u>複数</u> 熊本大学医学部附属病院 ART実施施設
紹介方法	<u>病診連携(FAX)、院内コンサルト</u> 医師間の電話・メール など
がん診療施設からの 統一された情報提供書式	<u>なし</u>
県外からの紹介	<u>まれ</u>
妊孕性温存実施施設	紹介先と同一 生殖医療実施施設へ紹介 <u>上記両方</u>
ネットワーク運用資金	なし
ネットワークHome Page ・開設資金	<u>なし</u>

ネットワークの運営体制(2)

妊孕性温存に関する 情報提供内容	<u>医療者の裁量</u>
症例の情報	<u>ネットワークで(症例数など)把握</u>
施設間の交流方法 (患者紹介以外)	定期的な研究会の開催を予定
行政の関与	<u>がん対策事業、不妊対策事業の一環 として参加を促す</u>
ネットワークの特徴	<u>基幹病院中心に運営</u>
ネットワークの課題	今からいろいろな課題が現れてくること が想定される